



職員IR (S I R) フォーラムの実践報告

淑徳大学 荒木 俊博
金沢大学 上畠 洋佑

SIRの背景と目的

●背景

先進的なIR導入成功大学の事例紹介の講演や推測による現実とは乖離した理念的な意見交換だけではない場が必要ではないかというウェブ上でのIR担当者の意見交換

●目的

現職員自らがIRに係る実際の体験を語り、そこから抽出される問題提起について、参加者同士で意見交換をしながら、**解決策を共に検討**し合うワークショップを開催し、IR担当者に求められる**分析力・協働的マインド・問題解決力を高める機会の広場（フォーラム）**とする

SIRの概要と手法

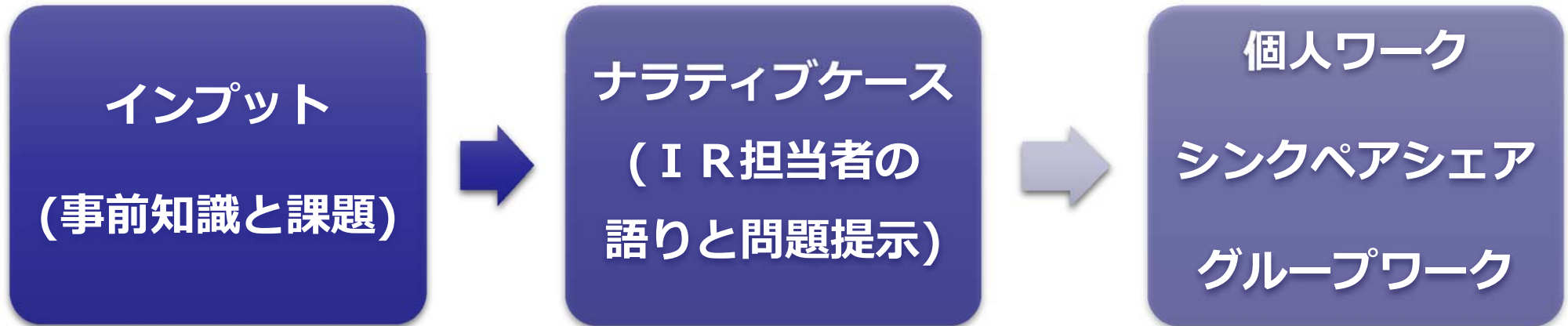
回数	日時	会場	参加者 (大学職員) 〔私大職員〕	当日の手法
第1回	2016年 2月6日	淑徳大学 東京キャンパス	18名 (12名) 〔10名〕	<u>ナラティブケース</u> ・ IRの部署の設立提案
第2回	2016年 5月21日	京都外国語 大学	13名 (9名) 〔9名〕	<u>ナラティブケース</u> ・ 大学にとって、 IRの必要性とは何か？ ・ IRでしかできないことは 何か？ ・ IR“部署”だからこそ できることは何か？
第3回	2016年 7月23日	淑徳大学 東京キャンパス	7名 (5名) 〔4名〕	<u>フォーカス・</u> <u>グループ・インタビュー</u>

SIRのアクションリサーチ

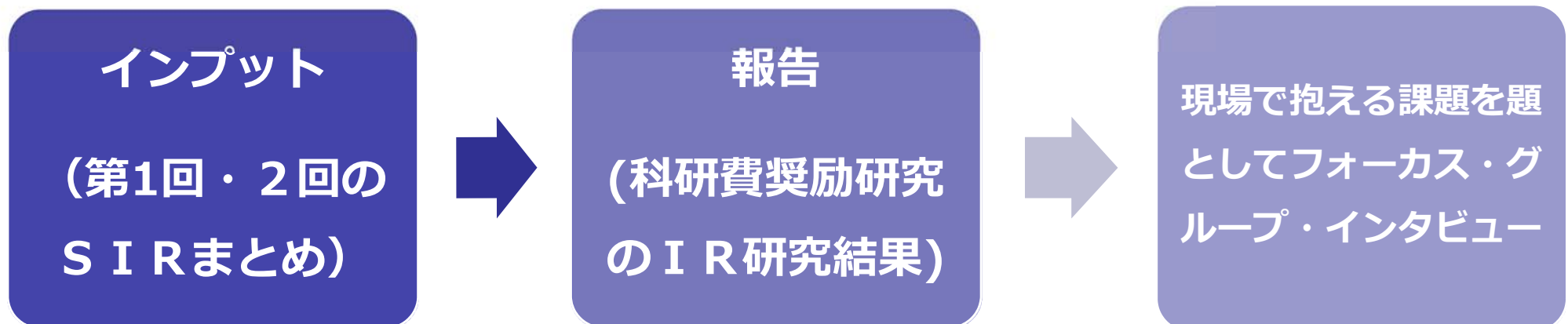
- 現職員によるナラティブケース（IRに関する実際の体験）による問題提起からの研究者と参加者同士で意見交換をしながら、解決策を共に検討し合うワークショップの開催
- 参加者がワークショップ開始前に認知している能力等の自己評価（レーブリック形式）を行った上で、研修後の意識の変容をアンケートで集計

SIRの当日の流れ

第1・2回目 フォーラムの流れ



第3回目のフォーラムの流れ



第1回SIRの語り・提起内容

①「インプット」（淑徳大学 荒木）

職員が語るIR：私立大学等改革総合支援事業から見るIRの実態と補助金について

②「ナラティブケースの提起」

（昭和女子大学 松丸氏）

必要なデータはすぐに得られる状況で、**IRの部署の必要性に疑問を持っている執行部に対して、どのような設立提案をしますか？**

個人ワーク、シンクペアシェア、グループワークを実施

第1回SIRワークショップ結果例

Q. IRの部署の必要性に疑問を持っている執行部に対して、どのような設立提案をしますか？

A.

- ① **情報収集** (部署、テーマ (教育・研究費)、横断)
- ② **現状把握** (全体を俯瞰し、顕在化していないデータを把握する)
- ③ **課題発見** (ボトムアップ)
- ④ **解決案提案** (具体的な事例・提案をあげる)

より高い次元での組織運営が可能となる

第1回SIRワーク結果全班まとめ

1. IR担当者によるアメリカと日本のIRのイメージ)



2. データから価値のある情報に変換する役割

データ

データの収集・顕在化、分析
既存データの横串

変換

現状把握
データの顕在化

価値ある情報

課題発見や解決案提示
データ支援 (例 (誰もが) すぐに使える状態にデータを保持する)
エビデンスの提示

IRのツール
ファクトブック
ポートフォリオ

支援

納得する意思決定につながる

執行部

何が問題かの特定
KPIの設定
高い次元での組織運営
実行可能なプランを立案

中立的な立場、大局的な視点、
第3者の立場、部署内の恣意性の排除

第2回SIRの語り・提起内容①

①インプット（神戸学院大学 松宮氏）

職員が語るIR：**大学の多様性をもっと大切にしているかどうか？**

- i) 形式ではなく、実践を優先する
- ii) 結果ではなく、プロセスを模倣する

②ナラティブ&問題提起（大阪経済大学 荒川氏）

「独り歩きするIR」

期待と現実→実際はデータを取りまとめるだけ

Q. i) 大学にとって、IRの必要性とは何か？

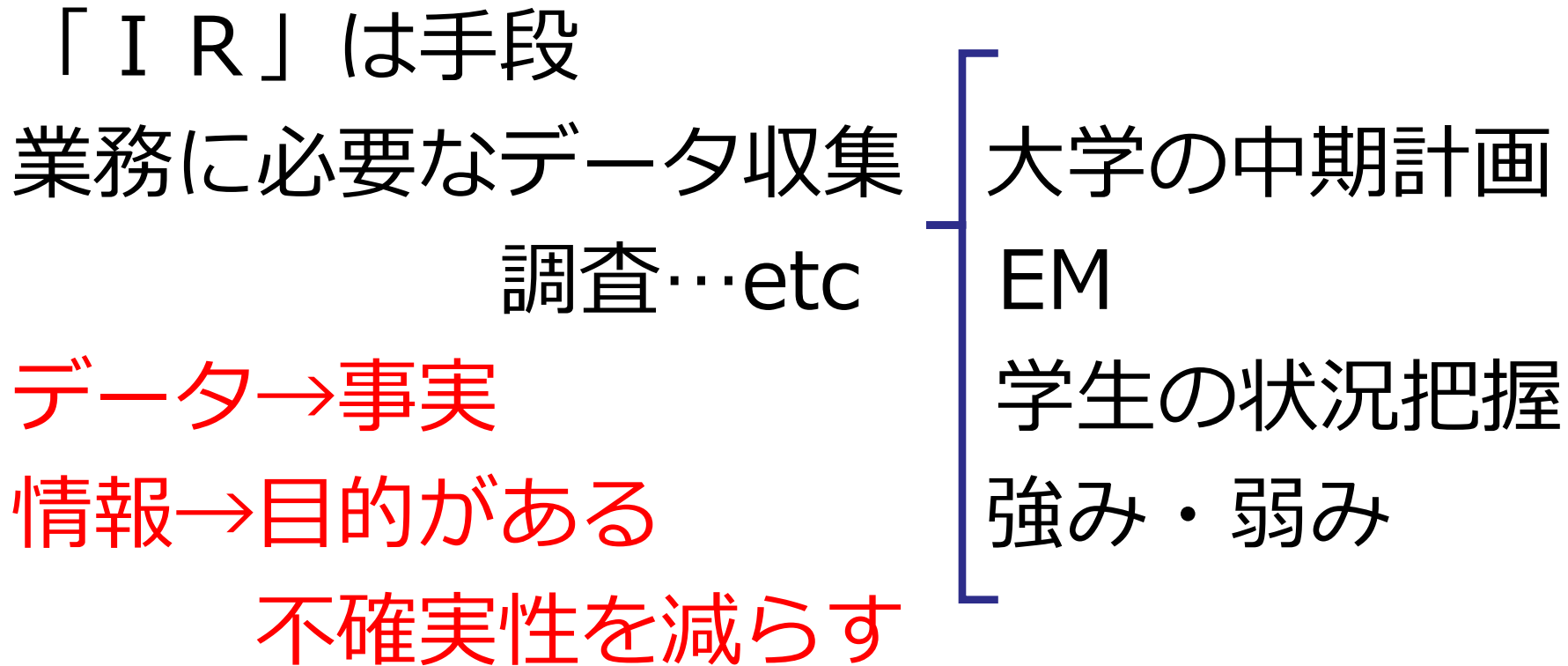
ii) IRでしかできないことは何か？

iii) IR“部署”だからこそできる事は何か？

**個人ワーク、シンク・ペア・シェア、ワールドカフェ形式
でワークを実施**

第2回SIRワークショップ結果①

i) 大学にとって、IRの必要性とは何か？



第2回SIRワークショップ結果②

ii) IRでしかできないことは何か？

- ① IRとは「大学全体を俯瞰して見られる」
- ② 組織の共通言語（大学内の情報）を
コミュニケーションツールとして活用する

iii) IR“部署”だからこそできることは何か？

- ① データから情報にする
- ② データを（一元化）つなぎ、まわす。
- ③ 計画・PDCA・評価基準の総括から改善提案→意思決定へ。

共通のキーワードとして**データから情報へ**

第3回SIRの語り・提起内容

①「インプット（第1・2回 SIR報告）」

（淑徳大学 荒木）

②「英国大学におけるIR取組みの調査について」（明星大学 岩野氏）

大学情報公開をIRに活かす

－効果的な情報公開を通じた職員組織の改善－
平成26年度科学研究費補助金（奨励研究）の報告

**事前に参加者から出された課題をもとに、
フォーカス・グループ・インタビューの実施**

第3回参加者から出された課題例

- ・ 学習成果の可視化
- ・ IRに関して把握している職員は自大学で多くない点
- ・ IRの取り組みの学内浸透
- ・ データの参照（利用）権限
- ・ 入口から出口までの学生についての分析の実例
- ・ IR実務者として最低限身に付けておくべき知識と能力
- ・ IRにおけるリサーチのメインは評価指標の設定のためなのか
- ・ 施策の立案・実行のためのエビデンス探しなのか
- ・ ミッションをいかに測定可能な指標にブレークダウンするか
- ・ 個々の教職員とどのようなコミュニケーションを取ればよいか

IRの担当職員が現場で抱える課題！

S I R 当日の様子



左上 第1回目ワーク発表
下 第2回目インプット時の様子

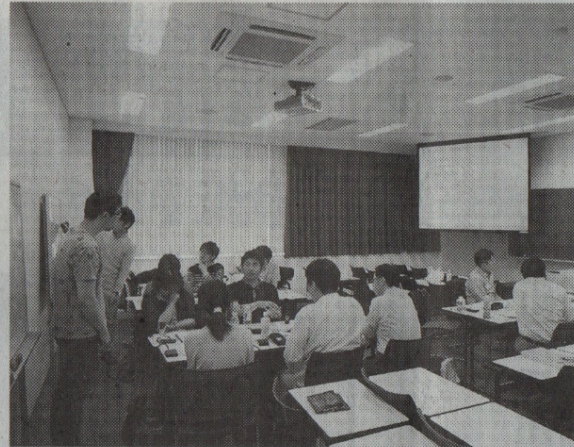


左下 第3回目フォーカス・グループ・インタビュー時の様子

S I R外部メディア掲載

教育 学 術 新 聞

平成28年5月25日(水曜日)



グループワークで熱心に議論

IRは独り歩きしているか

職員IR
フォーラム

ワークショップで意見交換

五月二十一日、京都外国語大学で、第二回「Staff IR Forum(職員IRフォーラム)」が開催され、関西地区一〇以上の大学から職員が集い、インステイテューショナル・リサーチ(IR)についての議論や意見交換が行われた。

昨今、IRという新たな職務領域において、学

長 の 意 思 決 定 を 支 援 す る 役 割 が 職 員 に 期 待 さ れ て いる。このフォーラムでは、職員自らがIRに係

る 実 際 の 体 験 を 「ナラテ ィブ(ものがたり)」と

して参加者に向けて語りながら課題を提起し、この課題に対して参加者同士で意見交換や解決策を

検討するアクティブ・ラ

ンニング型のグループワークを通して、IR担当者に求められる意識や知識やスキルを高める機会とすることを目的としている。フォーラムの冒頭では、「大学の多様性をもっと大切にしてはどうか?」「独り歩きするIR」をタイトルに、実体験を元に私立大学等改革総合支援事業に関わる各大学の現状をナラティ

ブ(ものがたり)として職員の生の声として伝え、IRの必要性とは何か?、「IRでしかできないことは何か?」、「IR」部署「だからこ

教育 学 術 新 聞
平成28年5月25日
(第2646号)に掲載。

S I Rの分析と仮説

○3回を通じた分析

- ① I Rを担当する職員は、効率性・経営といった観点からどうしたらいいかの観点を持っている。
- ② 教学に関する I Rを担当するには、職員の場合は教育に関する知識がなく、取り組みにくい。
- ③ 分析だけでなく、情報収集や自組織に活かすためどうするかといった場が必要ではないか。

○ I R参加者層や出された意見・課題からの仮説

I Rを担当する大学職員は**専門職化**ではなく、**ジョブローテーション化**に移行しつつあるのではないか